

交流センターだより

No.166
令和5年
1月号

発行 大歳地域交流センター TEL 922-4035 FAX 922-4036 人口 14,025 世帯数 6,873
開館時間 8時30分～17時15分 (行政窓口 TEL 922-2461) 令和4年12月1日現在

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、大歳地域交流センター主催講座をはじめ、各種事業や行事等にご協力を賜り、誠にありがとうございました。

お陰様で、充実した事業活動を行うことができました。

本年も、昨年より増して、地域の皆様により親しまれ、愛される地域交流センターを目指し、職員一同さらに努力して参ります。これまで以上に皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大歳地域交流センター 職員一同



地区社協からののお知らせ 太陽クラブからののお知らせ



お豆腐を使って

チョコレートを作ろう！



お豆腐とココアパウダーを使ってチョコレートを作ってみませんか？

日時：令和5年1月28日（土）

9時30分～11時30分(受付9時00分～)

場所：大歳地域交流センター 調理室・講座室

定員：先着27名程度（1組1～3名）

※要申込

対象：小学生～年齢制限なし！

※子どもさんは、なるべく親子でご参加ください

※グループ分けは事務局でさせていただきます

参加料：無料

持参物：マスク、三角巾、エプロン

備考：チョコレートはラッピングをしてからの
お持ち帰りとなります♪

申込先：大歳地区社会福祉協議会
(920-1700)

申込期間：1月10日(火)～1月20日(金)

※9時00分～17時00分の間にお電話ください



未就園児の親子さん！！

節分にちなんで、巻きずしを作しましょう！

大歳地区食生活改善推進協議会の皆さんが巻きずしのコツを楽しく教えて下さいます。

日時：1月20日（金）10時00分～

場所：大歳地域交流センター 和室

参加費：1家族100円

持ち物：エプロン、三角巾、まきす（持っている方）、飲み物

募集人数：未就園児の親子10組程度

申込先：竹中（090-7136-8305）

申込締切：1月13日（金）

節分



大歳地区ソフトバレーボール大会結果報告

11月27日(日)大歳小学校体育館にて開催しましたソフトバレーボール大会の結果を報告します。



【A級トーナメント】

優勝 岩富A
準優勝 中矢原熊さん
三位 中矢原猫さん、上矢原A

【B級トーナメント】

優勝 岩富B



優勝：岩富のみなさん



準優勝：中矢原のみなさん

大歳地区バレーボール大会結果報告

12月11日(日)大歳小学校体育館にて開催しましたバレーボール大会の結果を報告します。なお、女性チームにつきましては、参加分館数が集まらなかったため、親睦でゲームを実施しました。

【男性チーム】

優勝 岩富
準優勝 中矢原



優勝：岩富のみなさん



準優勝：中矢原のみなさん

みんなのひろばからのお知らせ

大人も子どもも、一緒に正月遊びしましょう♪
大歳地域交流センターで、トランプやカルタなど、正月遊びをして楽しく過ごしませんか？
みんなでおぜんざいも食べますよ♪気軽に参加くださいね♪

◆内容

- ①大人も子どもも正月あそび
(トランプ・カルタ・あやとり・折紙・お手玉)
- ②おぜんざいでお接待

◆日時 1月21日(土)
13時30分～15時30分

◆場所 大歳地域交流センター 講堂

◆参加費 100円

◆問合先 大窪 (080-2904-8193)



鴻南地域包括支援センターからのお知らせ

「介護予防出張講座」をご利用下さい。

介護予防に興味、関心のある団体に、専門の講師が出向いてお話しします。同一団体で年2回までは無料です。利用の1か月前までに地域包括支援センターまでお申し込み下さい。

【講座メニュー】

転倒骨折予防・認知症予防・お口の健康・食事の工夫・生活習慣病予防・排泄トラブルへの対応・高齢者の健康管理・薬との上手な付き合い方・関節症の方の生活の工夫・ロコモティブシンドローム予防・介護予防事業等に関すること。
※講義だけでなく体操など楽しく体を動かすメニューもあります。行事内容に迷われている方等、お気軽にご相談下さい。



★介護でお困りの時も、包括支援センターへ。

問合先：山口市鴻南地域包括支援センター

☎ 083-934-3333

「カローリングクラブ」が発足しました！

大歳地区内・外の多世代間のふれあい・交流を進めることを目的として、「カローリングクラブ」が発足しました。

カローリングは簡単なルールと使いやすい用具で特別な技も力もいりません。誰もが気軽に楽しめるスポーツです。まずは一度参加してみてください。

開催日：毎月第1土曜日（1月のみ第2土曜日）

時間：午前9時00分～11時00分

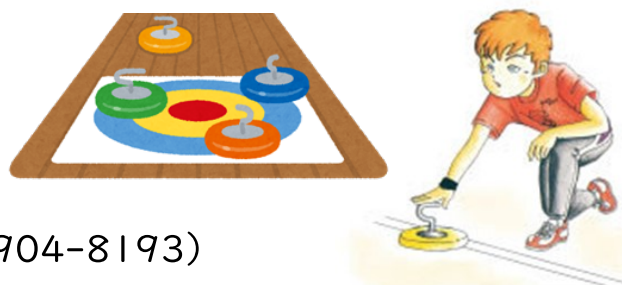
対象者：子どもから大人までどなたでも

会場：大歳地域交流センター 講堂

持参物：軽い運動のできる服装、飲み物

申込み：不要です。直接ご参加ください！

問合せ先：きららシニア大歳 大窪（080-2904-8193）



「はしゃごう！楽しもう！60周年子ども会フェスティバル」 ～子ども達の笑顔を思い出(アルバム)に～ が開催されました

山口市21地区の子ども会が地区の垣根を越えふれあいを高めようと、11月26日（日）、山口市子ども会育成連絡協議会創立60周年記念フェスティバルがやまぐちリフレッシュパークで開催されました。メインアリーナでは紙飛行機大会、サブアリーナでは各地区のブースを回るスタンプラリーが開催され、大歳地区の子ども達は「落としたら気まZ」のブースを運営しました。当日は子ども達のたくさんの笑顔が見れました。



【大歳地区1月の行事予定】

5日(木) 燃やせないごみの日

6日(金) 七草がゆ試食会(11:00～13:00)

13日(金) ぶっくん来館日(15:20～16:00)

15日(日) どんど焼き(10:00～14:00)

17日(火) 金属・小型家電製品の日

18日(水) びん・缶の日

20日(金) 子育てサークル太陽クラブ(10:00～)

パソコン相談(受付 10:00～10:30)

21日(土) みんなのひろば(13:30～15:30)



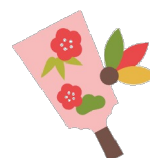
25日(水) 古紙ペットボトル分別収集(大歳①)

27日(金) ぶっくん来館日(15:20～16:00)

28日(土) チョコレート作り【地区社協】(9:30～11:30)

30日(月) 古紙ペットボトル分別収集(大歳②)

※木曜日はプラ容器包装分別収集



けいべん

山口の軽便鉄道と雨宮敬次郎

山口を走った^{けいべん}軽便鉄道の小郡・新町―湯田間が開通したのは1908（明治41）年11月で、敷設工事の開始が同年7月ですから、わずか4ヶ月で、工事を完了し開通したことになります。こうした敷設事業の素早さは鉄道王とも呼ばれた甲州財閥の一人・雨宮敬次郎の力によるところが大きいと思われます。

この年より10年前に山陽鉄道は三田尻まで開通。ここから県都山口を経て小郡に至るか、そのまま直通して小郡にいたるかの論議はありましたが、1900（明治33）年、直通して小郡に至ります。1906（明治39）年の鉄道国有法によって、山陽鉄道も7885万円で国に買収されます。もちろん、買収は現金ではなく株券が国債に置き換えられただけですが、これによって私鉄17社の鉄路4500kmが併合されて、国有鉄道はその距離を一挙に3倍にしました。

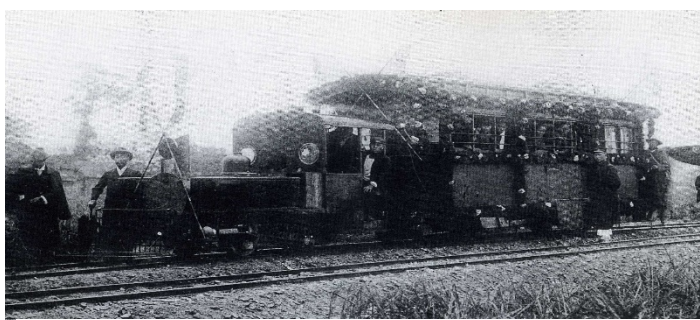


雨宮敬次郎

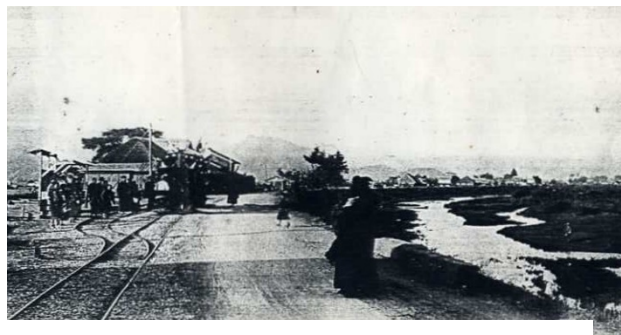
鉄道は資本主義発展の象徴であり、鉄道の父・井上勝（長州ファイブの一人）の願いにもかかわらず、渋沢栄一など民間の国有化反対論のため国有化法案は何度も否決されてきましたが、日露戦争を挟んで、軍部が軍事的要請から国有を強く主張して成立しました。もっとも、すべての私鉄が国有鉄道になったわけではなく、幹線機能をもった鉄道に限られ、地方鉄道は私営とされましたが、私設鉄道法の煩瑣な手続きと、国有化に伴う変化のため、鉄道熱が冷めたかに見える時期を迎えました。このため、1910（明治43）年に軽便鉄道法を施行し、鉄道事業の許認可手続きが簡素化され、再び鉄道熱が広がりました。

こうした変動期の1908（明治41）年に開設された山口の軽便鉄道は、1913（大正2）年2月19日11時30分の山口駅着便が最終便となって閉鎖され、翌日から新たに敷設された現在のJR山口線に置き換わりました。つまり、雨宮敬次郎が社長を務めた大日本軌道山口支社の軽便鉄道計画とほぼ並行して「山陽山陰連絡鉄道」計画が浮上し、1910（明治43）年には請願が受理され、1911（明治44）年には測量を開始するという競合状態の中で大急ぎで作られた鉄道だということがわかります。雨宮敬次郎は1911（明治44）年1月に死去、彼の事業は徐々に解体に向かっていきますから、現在の山口線が開通すると、2路線の競合という選択は取らず、8万円弱の補償金であっさりと軽便鉄道は幕を引くことになりました。

雨宮敬次郎は民間鉄道事業者には珍しく鉄道国有論者でした。それも軍事的観点からではなく、国有化による安い運賃の実現こそが殖産興業の基本というまっとうなものでした。山口の軽便鉄道は最盛時、年間36万人（1日千人弱）の利用者があり、小郡―山口間に10の停留所があり、駅間の距離が平均1.2kmという便利なものでした。広軌鉄道化が持論の雨宮が最も狭軌の軽便鉄道にしたのは、山口の経済・社会状況に対する過小評価があったのかもしれませんが。ただ駅間距離の短い便利な軽便鉄道の伝統は山口線になっても矢原駅や湯田温泉駅などの開設を要求する取り組みに引き継がれていったようです。（大歳史談会： 文責 武波義明）



軽便鉄道開通式



当時の軽便鉄道の和田橋停留所